



北海道遺産・北見市指定文化財

ピアソン記念館

第120号

(隔月刊)

ピアソン便り

NPO 法人ピアソン会事務局
(事務局長 伊藤 悟)
〒090-0036 北見市幸町7丁目4番28号
ピアソン記念館内
TEL.FAX 0157-31-1215
午前 9:30 ~ 午後 4:30
e-mail / pierson@yacht.ocn.ne.jp



会報のバックナンバー等は、左のQRコードホームページで読むことができます。

発行：2025. 1.31
(令和7年 1月31日)

発行人：中山 一夫 (理事長) 編集人：伊藤 悟 (副理事長)

ピアソン夫人著 『六月の北見路』 に関わる話

年明けの8日に、館内を熱心に観覧し、帰りがけに改訂版「六月の北見路」を買い求める来館者がいたので、「失礼ですがこの本のどのような点に興味がありますか？」と、思わず聞いてしまった。
そこから、今回のこの記事がはじまります。

その来館者訪問の目的は？

その時の来館者の話によると、『職場の大先輩(元日本通運北見支店長)が、初めて北見に赴任した時の紀行文を読む機会があり、その中に、「この地の歴史・自然・風土を知るため、町を散策していた時、偶然ピアソン記念館に出会い、展示されていた「六月の北見路」を読みたくなり、求めたが、一冊しかない貴重なもので貸出もできず、当時図書館にもなく、読むことができなかった。その後、色々な関係を探し回ったが、結局、26年後、インターネットで「記念館のホームページ」から、改訂版の「六月の北見路」を購入し読むことができた」、そのようなことから是非自分も読んで見たいと思ったのです」と。その話を聞き、「職場の大先輩が書いた文章を、ピアソン便りに掲載させていただくことができるでしょうか？」と依頼した。『本人の承諾を確認しませんと』ということで、後日返事をいただくことになる。21日に再度そ

の方が来訪 名刺交換をし、職場(北見労働基準協会事務局長)の関係と大先輩へ次の手紙を送ってくださったことをお聞きした。

『ピアソン便り』への投稿についてのご相談』
拝啓

成田正一郎様

先日、成田様からいただいた北見在住時の『ピアソン記念館』訪問紀行文を拝読し、大変感動いたしました。特に、記念館展示の「六月の北見路」英文原作の日本語訳本を国内外で探し回り、念願がなつて読まれた工ピソードや、当時の北見での過ごし方に改めて感銘を受けました。私も感動のあまり、ピアソン記念館を訪ね、館内を鑑賞後、この本を購入し、早速読みました。当時の北見の布教活動と地域の方々の文化活動について改めて知ることができました。

管理人の方から「なかなか購入する方がいないレアな本を手にとって買われたが、興味がありますか？」と尋ねられ、成田様とご縁をお伝えしたところ、ぜひその紀行文を見せていただけないかとお願いされましたが、成田様ご本人の了承を得ていないため、無断で見せすることはできませんでした。管理人の方からは、そのままでも、編集してでも構いませんので、隔月刊『ピアソン便り』への投稿をお願いできないでしょうかとお話しをいただきました。もし、投稿が可能であれば、私から記念館事務局長にお伝えし、直接連絡を取っていただくことをお繋ぎすることも可能です。ご多忙のところ恐縮ですが、ご検討いただけますと幸いです。どうぞよろしく願ひ申し上げます。

敬具

このご親切なお手紙から、次のような返信がありました。

田中様へ

成田正一郎様より

北見労働基準協会の思い出話からピアソン記念館へと、思わぬ方向へ話が飛びましたね。

北見の人々は意外にピアソン記念館に向いていないと北見在任中思っていました。開拓時代から現在に至るまでの先人の姿を知る機会が少ないのに勿体無いと思っていました。今般、貴君がピアソン記念館を訪れ「六月の北見路」に触れたとのこと、真に嬉しく思います。

まず、「紀行文を見せていただきたい」とのこと、何の変哲も無い文章です。お見せすることと何の差し障りもありません。提供していただいて結構です。

次に掲載についてですが、私への依頼でしたら下記により適切では無いと思います。同文章は人にお見せするために書いたものではありません。同文章の目的は、北見の人々の歴史を知ろうとしたことで、ピアソン記念館が直接の対象ではありません。(以下略)

来館された田中氏と相談し、一応原稿の編集は、編集者に任せていただけることになり、成田様が、今から32年前、初めて出会ったピアソン夫人著『六月の北見路』に関する原稿を読者に紹介出来ることになりました。しかしその前に三種類の「六月の北見路」について、簡単に説明しておきます。

原本は英文、1910（明治43）年6月に、北見地域を伝道した記録。当館での所蔵以外確認なし。（明治43年出版。全49p、写真17点ある）
 原題名（Through Kitami in June）。



右の英文原本を翻訳した1978年発行の「六月の北見路」。この翻訳本もすぐに品切れとなり、成田氏が記念館を訪れた頃には手に入らない状態であった。



1978年9月出版の翻訳版。翻訳は小池創造牧師（当時北見教会）と吉田邦子による。この本には付録として「北海道における聖霊の活動」を掲載している。

私たちピアノン会が、1996年からピアノン記念館に関わるようになり、この翻訳本「六月の北見路」の再販を希望する声を多く聞くことから、また英文の原本が一冊しか現存していないので、翻訳文と英文原本とを合わせた改訂

版「六月の北見路」を発行することとした。



2002年12月出版の改訂翻訳版。翻訳は吉田邦子により、英文原文も復刻し後半に収められている。初版の付録は採録されていない。

【成田氏のピアノン記念館訪問の紀行文】

ピアノン記念館

1992年2月、北見支店に赴任した。入社以来12回目の転任であった。初めての任地に着任すると、それまでも必ず当地の地理と歴史を調べることとしていた。地理については、「歩く」ことが何よりも好きであったため、休日地域を歩き回るのが常であった。特に北見は単身の赴任3回目、休日は時間が有り余っているため、赴任後暫くの間、終日町中をほつつき歩いた。歴史書については、市の図書館や本屋を探し回ったが求めているものは見当たらなかった。札幌に出向いた際大きな書店を訪ねたが、北海道の開拓史は多数あるが北見地方に絞つ

た書物は見つけることができなかった。また、新たな地に行くとその地を題材とした歴史小説等を読むのが楽しみであったが、それも見当たらなかった。休日のある日、例によって北見の町をあてもなく歩きまわっていると、「ピアノン記念館」の前に出た。その存在も知らなかったし、そもそもどういう施設なのかも知らなかった。入館し掲示してある文章を読むと、その建物は往時北見を拠点に布教に当たっていたピアノン宣教師夫妻の居宅であることが分かった。館内に展示してある写真や資料を見て歩くうちに、往時の野付牛（北見地方）の姿や人々の暮らしが目に浮かんでくるようになった。そしてガラスケースの中の本の開かれたページを読んでみると、開拓時代の北見地方の姿を描いた本のようであった。記念館の方にお願ひしてガラスケースから取り出し目を通したところ、ピアノン夫妻が北見地域を旅行した際の紀行文であった。題名は「六月の北見路」。これぞ探していた書と思ひ借用を申し入れたが、『一冊しかないの貸出できない、但しその続きの下巻なら複数あるので可能です』とご親切にも貸してもらえた。

早速借りた下巻を読んでみると、下巻は本稿（上巻）を読んだ人々の感想文であった。そうなる何かも何んでも本編を読みたくなる。発行所や印刷所を調べたが既に存在せず、市の図書館にも見当たらない。かつてピアノン師が教鞭をとっていた明治学院大学にも電話したが保管なし、この上は下巻にブラジル移民者からの感想文があるので、ブラジルの大使館に電話し関係資料を調べてみよう思ったりもした。しかし、北見赴任後時間が経つにれて休日も含めて業務に追われるようになり、「六月の北見路」の探索も意識から遠退いていった。

ピアノン記念館との触れ合いは上記だけのことであったが、その経験は赴任3ヶ月間の北見地域の人々に対する思いの原点となった。ピアノン記念館の野付牛（北見）時代の諸々の展示、そこで立ち読みした「六月の北見路」、そしてその続編に寄せられた思いの数々から、自然環境の中で、しかも開拓途上の過酷な生活状態に置かれていた人々が、身を寄せ合い助け合いながら過ごしている暮らしがうかがわれた。

早速借りた下巻を読んでみると、下巻は本稿（上巻）を読んだ人々の感想文であった。そうなる何かも何んでも本編を読みたくなる。発行所や印刷所を調べたが既に存在せず、市の図書館にも見当たらない。かつてピアノン師が教鞭をとっていた明治学院大学にも電話したが保管なし、この上は下巻にブラジル移民者からの感想文があるので、ブラジルの大使館に電話し関係資料を調べてみよう思ったりもした。しかし、北見赴任後時間が経つにれて休日も含めて業務に追われるようになり、「六月の北見路」の探索も意識から遠退いていった。

人々、商工会議所やロータリークラブ等個人的付き合いのメンバー、日本通運北見支店の現地採用社員、それぞれにそのDNAの一端が感じられた。一人よがりの先入観であったかもしれないが。
 （追記1）

2000年4月、北見を離れて5年後、ブラジル日通本社（サンパウロ）を訪れた。サンパウロ市内の観光にはガイドを雇い見て回った。その市内散策の途上、日本移民資料館に出くわし、思わぬ幸運と思ひ入館した。往時の資料が並んでいる展示室を歩みながら北見関係の資料を見逃さないよう目を凝らしていたところ、北見からの移民団と思われる写真を見つけた。北見にいる時ブラジルを訪れるなど思いもよらなかったが、それが実現した。但し、時間がなかったので探し求めていた「六月の北見路」やその他資料について調べる暇が全く無かったのは残念であった。
 （追記2）

北見を出てから26年後2021年、インターネットで別件を調査した際、何気なく「ピアノン記念館」を検索して見た。驚いたことに、そのホームページが出てきて、しかも出版物購入可能リストの中に「六月の北見路」があった。北見在任当時パソコンはあったが、ホームページはなく、まして

ピアノン記念館を覗けるなど思ってもいなかった。早速ピアノン記念館に電話し「六月の北見路」を取り寄せ一気に読み終えた。認識が異なっていたこと、事情が分かったこと、新たに知ったこと等々諸々出てきた。

「六月の北見路」は、当時旭川を拠点としていたピアノン宣教師夫妻が北見地方を伝道しながら旅をした際の旅行記であった。したがって、地域の人々との心穏やかなふれあいや描かれており、厳しい自然環境や苦しい生活状態などに触れる記事は少なかった。旅した1910（明治43）年には、北見地域の開発は未了ながら生活に困窮しない程度には進んでいたようである。29年前ピアノン記念館を訪れた際にはこうした認識はなかった。館内の展示や立ち見した「六月の北見路」の資料・記事・写真（原野・家屋・服装など）からイメージした姿から、往時の北見地方および人々に対する先入観を作り上げてしまったようである。

1978年初版で、今般手に入れたのは2002年の改訂版であることが分かった。（編集者註／翻訳本「六月の北見路」も当時は当館に一冊しか保存がなく貸出ができませんでした。それ以降、インターネットを駆使して、古本屋から新たに二冊見つけて保存している。希望者には現在条件付きで貸出可能）

「六月の北見路」の下巻を読んだと思っていたが、続編ではなく当該書を読んだ感想文などを別途集約した書とのことである。
 ピアソン夫妻の行程は、当時伝道の拠点としていた旭川から小樽に出て船で稚内を廻り、北見枝幸・雄武に立ち寄り、湧別に上陸した。その後、字田（遠軽・佐呂間・留辺蘂・野付牛（北見）を乗馬と馬車で旅し、また美幌にも立ち寄った。その後、陸別・池田を経て旭川に戻った。旅行の範囲を見ると、日本通運北見支店の守備範囲であった。
 ピアソン夫妻は1910（明治43）年の「六月の北見路」の旅の後、1914（大正3）年伝道の拠点を野付牛（北見）に移し、40年間に渡る日本での伝道活動の最後を野付牛で過ごした。1928（昭和3）年ピアノン夫人の弟の住むフィラデルフィアに居を構えるまでの15年間をピアノン夫妻の居宅が、ピアノン記念館であった。（了）



1979年12月出版。ピアノン師のゲップ夫人への追悼の評伝翻訳と、前年出版の『六月の北見路』に関する感想文などで構成されている。

以上が、成田氏の北見の思い出であり、この文で『六月の北見路』に関する思い入れを感じていただけたと思う。

私事になるが、私が中学1年に、父親の転勤で東京からこの北見に転居した時、「ピアノン通り」という異国の呼び名を持つ通りに古ぼけた西洋館を見つけ、そこに昔ピアノンという宣教師夫妻が住んでいたことを知った。それ以来ずうっと気になり、現在はこの記念館でボランティア活動をするに至っている。

何かしら成田さん、そしてその縁を取り持ってくれた田中さんとの不思議な出会い。ピアノン夫妻と先人たちが集ったこのピアノン邸を持つ、何かしらの力なのか？ などと思ったりもする。『賢者は歴史に学ぶ！』

伊藤／編

啓「ピアノン学事始め」

この「ピアノン学事始め」は、22年前に街の情報誌に書かれたものですが、少し手を加え年号なども修正し改稿として連載しています。

(20) ピアソン夫妻、坂本直寛牧師との協力

ピアノン夫妻が、札幌から旭川へ転居した年の一年後明治35年に、北見開拓先駆けの、土佐高知北光社社長であった坂本直寛（明治37年に牧師となる）が、旭川二条教会の伝道者として着任します。二人は協力しあい、伝道に励み翌年には、二条西十一丁目に、大きな新会堂を建設するまでになります。

ほかの宗教団体にとつては、突然ピアノン夫妻が定住し、さらに坂本伝道師の出現で、あれよあれよと云う間に多くの会員を獲得したのですから、面白いはずもありません。また、旭川ではその頃、街の中心から離れてあった遊廓を、街の中心へ移転しようとの動きがあり、それに対しピアノン夫人が中心となって活動している婦人矯風会が、反対運動を強力に進めていました。この運動に対しても旭川の一部の人々は、ピアノン夫妻と坂本師に対し、悪感情を露骨に現していくようになります。さらにピアノン夫妻は、近文のアイヌの人々の集落を頻繁に訪れ、その生活の実態を知り、根本的な差別



【写真右】1903（明治36）年、旭川町2条通11丁目左10号に建築、献堂式挙行。多くの会員、日曜学校の児童等が集まった記念写真。

「ニュージージーランドからの便り」第49回

ピアノン会顧問 グラハム・ハード氏



ファンガヌイ（北島の南部・

ふるさと）からの便り

2024・12・7（土）

ファンガバラオアへ戻る

◆北見の皆様方、冬の寒さの中でお変わりありませんように。予定通り、月曜午後、無事にファンガバラオアへ戻り、落ち着きました。ここでは何事も良い状態ですが、とにかく暑く、気温と季節の変化に馴染むまで時間がかかりそうです。今日はちよつと涼しくなり、良い具合です。

◆皆がクリスマスと夏休みの準備に忙しそうにしています。旅に出る前に植えていたジャガイモはよく成長していて花が咲いています。◆オコロマイ海岸沿いのポフツカワは赤く咲き始めています。◆北見の皆様方にどうぞよろしく！

2024・12・23（月）

◆皆様、2024年のクリスマスと2025年の新年、おめでとうございます！

2025・1・17（金）

◆メッセージありがとうございます。厳寒の北見にあつてもお変わりのないことを嬉しく思います。

◆自宅（北部）ファンガバラオアのジャガイモは、クリスマス・ディナーにちょうどよく収穫できました。紫色が様々なジャガイモは美味しかったです。クリスマスは、サマフィールド一家（姉ジュディの家族）の子供たちや孫たち、また、ほかの人たちも集まる素晴らしい機会でした。

◆私は今、ファンガヌイ最後の日で、明日はファンガバラオアの自宅へ向けてのドライブで北上します。ここでの美しい夏の日々、コテジ（小さな家）から周りの素晴らしい景観を楽しんでいます。

◆今年は、果樹園のプラムには大変な年で、りんごの収穫もあまり望めません。鹿がフェンスを越えて入り込み、低いところの枝を齧ってしまい、さらに、悪いことに、先にもりんごの木に仕掛けておいた害虫よけも、効果がなかったようです。果実も大きな被害を受けました。しかし、梨や桃は良さそうで、

次にここへ来る時―2月末か3月初め―までには良くなっているのではないかと、など思っています。

◆昨日、従兄弟のステイヴとファイディングの家畜市場へ行ってきました。雌羊たちが、それぞれ119ドルの値がついていました。トラキナ、マートン、ハルコムを過ぎ、ファイリングまでの道は快適で、子供時代のたくさんの思い出があります。天候は申し分なく、まるで天国に居るような気持ちでした。

◆今年、ここファンガヌイへ来た時に、改装されて新しくなったサージャント・アート・ギャラリーへ行ってみました。1919年まで遡る美しい建築物で、伝統的なものと現代的なものの両方の良いものを収納保管しています。新装改築によって、確実に申し分のない良い印象を与えていると思います。私は、ニュージージーランドの有名な画家エディス・コリアアの全作品を目にする事ができて嬉しかったです。

彼女がファンガヌイ生まれで、前世紀の初期にグレート・ブリテン（英国）で学んでいました。

◆ファンガヌイへの道すがら、パラパラ・ロードで車をとめ、ラウカワ滝を眺めました。そのおりの写真を送ります。

◆北見の皆様によりしくお伝えく



ださいますように。

グラハム・ハード

瞳ふあっしょん・瞳けあ

めがねのよっしー

代表 岩井 敏 忠

〒090-0043 北海道北見市北3条西3丁目

携帯・090-2693-1919 TEL. 0157-57-3664

定休日/毎週木曜日・営業時間/10時～19時

編集後記

編集後記の文字が小さすぎると、読者よりお叱りの言葉をいただきました。編集作業の時には、モニターに拡大しての編集です。私には苦にならないのですが、読む側になってみると、確かに辛いのです。スペース節約のため文字を小さくしてしまい、反省しています。今回から2ポイントアップの8ポイントフォントでの編集後記にします。

郵便料金が上がり、会報を送付する経費がきつくなりました。値上げ後、今まで家に残された切手などをかきあつめて、封筒には数枚の切手での発送をしていたところ、会員様より、「家に買い集めていた記念切手があるので」とご寄付（1万円以上の切手）をいただきました。あと一・二回数枚の切手組み合わせでの発送になると思います。感謝！感謝！

『赤煉瓦庁舎』への展示物紹介は次号で報告！と、前回の編集後記で書きましたが、今月号は、「六月の北見路」に関する記事となりました。西欧人が初めて記録した明治開拓期のオホーツクエリアの人々を記録している貴重な本です。その貴重な英語原本（日本では記念館の一冊のみ）を翻訳した1978年発行の「六月の北見路」、この本が手に入らないということで、2002年に改訂版「六月の北見路」の発行。そんな本を29年間心の中に留め置き、改訂版を手に入れた方を紹介する記事になりました。ご理解ください。

（副理事長兼事務局長 伊藤 悟